

てんかん動画①  
はこちら

# 1. てんかんという病気とは？

てんかんとは一言で言うと「脳の病気」で、てんかん発作を起こします。例えば「狭心症は心臓の発作」、「喘息は肺の発作」といった、特定の臓器に「発作」を起こす病気があります。てんかんもその一つで、てんかんは脳という臓器が「発作」を起こす病気です。

脳の発作は、小さく部分的な脳の発作のこともあれば、広く脳全体に及ぶ発作の場合もあり、てんかん発作の症状や強さの程度には個人差があります。

もちろん「発作」ですので、症状が出るのは短時間(通常数分以内)であり、治まると症状のない元の状態に戻ります。てんかんでは、その発作が繰り返し生じます。

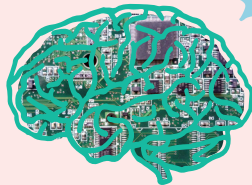
メモ.1

## 脳はコンピューター回路

脳は私たちの思考や行動をつかさどる装置で、例えるならコンピューターのようなものが頭の中に組み込まれています。本当のコンピューターと同じく、内部には電気の回路があり、そして本当に電気が流れています。ちなみに、

てんかんの診断に用いられる脳波という検査がありますが、これは脳内を流れる電気の様子を波形に表す検査です。

てんかんという病気はこのコンピューターの電気の回路に異常があり、そこに激しい電気が流れるとき(脳の過剰興奮が起きた際)に「てんかん発作」を起こします。この回路の異常を「てんかん焦点」と呼び、その部位や範囲によって発作の症状が異なります。

てんかん動画②  
はこちら

## 2. てんかん発作の症状

大脳は大きく4つの部分(前頭葉、側頭葉、頭頂葉、後頭葉)に分けることができます。そのどこか一部で発作が生じる場合を「焦点性てんかん」(発作)と呼びます。一方で、大脳全体が一気に発作を起こす場合もあり、これを「全般性てんかん」(発作)と呼びます。さらに、症状の始まりは「焦点性てんかん」発作でも、その後に大脳全体に広がって「全般性てんかん発作」が現れることもあります。

焦点性てんかんの場合、発作を起こす脳の部位をてんかん焦点と呼び、その部位によって発作の症状は異なります。例えば、ある部位の発作では、思考や動作が止まったり、その場にそぐわない異常行動を繰り返したり、また別の部分の異常では手足や顔面がけいれんしたりするかもしれません。これらのてんかん発作の際に、自分自身で症状を自覚している(覚えている)人もいれば、全く自覚していない(覚えていない)人もいます。発作の症状が軽ければ、自分にしかわからないことや、他人が見ても気づかないこともあります。したがって、「だれも症状に気づいていなかった」とか、「それがてんかん発作だとは思っていなかった」とか、後になって詳しい症状が判明する場合があります。

### 自分でわかる症状

違和感を感じたり  
独特の感覚を訴える



### 自分でわからない症状

行動異常やその記憶がない

全般性てんかんで多い症状は急に倒れて全身がけいれんする発作(全身けいれん)です。症状としては一番激しく、多くの人が抱くてんかん発作のイメージがこの症状かもしれません。その他にもボーっとして動きが止まる(欠伸発作)とか、一瞬体がピクツと震える(ミオクロニー発作)などの症状が見られます。

全身けいれん  
(強直間代発作)



手の震え・ピクツキ  
(ミオクロニー発作)



一時的にボーっとする  
(欠伸発作)